

福岡女学院看護大学 「ミッションタウン」が、 日本 e-Learning 大賞 「厚生労働大臣賞」を受賞

本誌編集室

福岡女学院看護大学が開発した学生向けWeb教材「仮想都市ミッションタウン」が、第16回日本e-Learning大賞（2019年度）「厚生労働大臣賞」を受賞した。同賞は、e-Learningを活用したコンテンツ・サービス・ソリューションの中から、とくに優れたものを顕彰するもの（主催：一般社団法人e-Learning Initiative Japan、後援：経済産業省、文部科学省、総務省、厚生労働省他）。他の受賞者には、国内外の教育系開発に携わる企業等が名を連ねた。

27の家族が暮らす「ミッションタウン」

ミッションタウンとは、看護学生が学べき課題をもった47事例（患者）27家族が生活する“仮想都市”（<https://m-town.fukujo.ac.jp/>）。福岡女学院看護大学の学生たちはスマートフォン等からいつでもその都市内を閲覧でき、そこに住む家族と患者らの健康課題とともに、生活環境、社会資源を踏まえた支援について領域横断的学びを進めることができる。

現実時間に合わせ、仮想都市内の時間も経過させられるのが特徴だ。4年間通して事例に向き合う学生らは「1年生のときに入院して来られたあの田中さんの家に、今度はお孫さんが生まれるんですね」と、架空の事例でありながらも愛着をも

って老年・母性看護の事例と向き合うことができる。グループワークはもちろん、個人で進める疾患や看護の基礎学習についても「田中さんのために」と、自然と身が入るのだという。

「領域を越えて事例を共有したい」というアイデアから

中心となってコンセプトを練ったのは、同大学シミュレーション教育領域教授の藤野ユリ子氏（写真左）と、公衆衛生看護学領域准教授の山田小織氏（写真右）。きっかけは、教員らでシミュレーション教育のシナリオを検討する中で、「領域を越えて事例を共有したい」というアイデアだった。そこで、専門分化された科目を担当していた各教員が集まり、領域横断・地域密着をテーマに作った教材が「ミッションタウン」だ。当初は冊子として作成されたが、藤野氏がExcelで設計図を作り、システム開発会社（マージシステム株式会社）と連携することでICT環境下での利便性を整えた。そうして生まれたのがミッションタウンWeb版である。

「Web上にあることで、学生にいつでもアクセスしてもらえただけでなく、授業・学習の進捗度に合わせて事例の状況を変化させたり、新しい課題を提示したりすることも可能になりました。まるで4年間を通じてシミュレーション教育をしているみたいですね」と藤野氏は話す。

タウン内には、家や病院だけでなく保健所や高齢者施設等もあり、このような社会資源をいかようにも増やすことができる。汎用性や発展性があり、今後の広まりにも期待できそうだ。

第四の教育

11月13日に行われた授賞式では学長・片野光男氏が「これは、座学（第一教育）、シミュレーション教育（第二教育）、臨地実習（第三教育）に次ぐ『第四の教育』である」と述べた（写真中央）。

消化器外科医として九州大学等で長年にわたり医学教育にも携わってきた片野氏。「これまでの医療教育の大きな課題を、ミッションタウンは打破する力を秘めている。これからの時代、教材としてだけでなく地域に開かれた“新しい医療教育の概念”として革命的だと自負する」と熱く語った。



御茶ノ水・ソラシティでの授賞式にて